

足見生き活き教室

8月19日（土）、足見ふれ合いセンターで足見地区振興会（岡本恒会長）主催の「足見生き活き教室（健康アップ教室）」が開催されました。前半は、げんき広場の小谷健康運動指導士を講師に、紐を使って肩の動きを良くする運動や猫背を改善する運動、下半身をリズムよく動かす有酸素運動などで心地よい汗を流しました。後半は、足見を守る会（東正虎会長）が担当して脳トレを行いました。各地（中国5県と徳島県）の有名なお祭りをテーマにした絵が上下2枚提示され、5つの間違いを見つけ、「間違い探しゲーム」で脳の活性化を図りました。全部で6問用意され、なかなか間違いを見つけられない問題もありましたが、参加者全員がとても楽しく活動されました。



紐を使って運動する参加者



間違い探しゲームの答え合わせ

わくわく科学ランド「草間台児童クラブ」

8月8日（火）、草間台児童クラブの児童を対象にわくわく科学ランドが行われました。「木のおもちの会」代表の藤本忠雄先生をお招きし、大きなシャボン玉、シェービングクリームを使った香りの良いスライム、ペットボトルの中の魚が浮いたり沈んだりする不思議な浮沈紙を作りました。中でも、子ども達が一番喜んだのがシャボン玉です。風が吹いて、子ども達より大きなシャボン玉ができて、いくつもいくつも果てなく小さなシャボン玉ができたりして、大きな歓声が上がっていました。



大きなシャボン玉ができたよ



浮いたり沈んだりする魚

草間地区集落特産品魅力向上研修会②③

草間カルスト里山の会（堀江利明会長）の地域振興部（田本友広部長）は、「おかやま元氣！集落特産品魅力向上研修会」を開催しました。

6月に続く第2回目の7月30日（日）では、新たな商品に向けてのコンセプトの設定として、草間の魅力について参加者でワークショップ形式により意見を出し合い発表共有しました。特産品のみでなく、自然環境や産業・文化・観光などの幅広い魅力を込めて売れる商品化を目指すことを教わりました。

第3回目の8月23日（水）では、今後の商品化を目指し、検討が進められている桃やピーチオネを使ったシロップ漬け（ビン詰）について、買ってもらう人（ターゲット）を設定することを参加者で話し合いました。性別や年齢層、居住地、趣味等細かく具体的なターゲットをイメージすることが特に重要であることを学びました。

この研修会は岡山県備前中県民局が事業主体で、専門家が外向き、特産品の付加価値向上や新商品開発に関わるアドバイスを行うもので、今年度の新規事業として草間地区が対象地区に選定されたものです。岡山フードバレーセンターコーディネーター 旦 知子さんを講師に、商品化に向けた戦略等について研修会を年5回開催する予定です。



熱心に話し合う参加者

草間台GG愛好会8月大会

8月18日（金）、土橋交流センターグラウンドにおいて、草間台グラウンドゴルフ愛好会の8月大会が、会員34名の参加で行われました。

成績は次のとおりです。

【男子の部】

①二摩泰男 60打 ②松本茂憲 ③中山義昭

④宮坂要治 ⑤藤原健雄

【女子の部】

①藤波英子 56打 ②山口波子 ③西村宮子

④数原ユリ子 ⑤中山美恵子

【ホールインワン賞】

・藤波英子・山口波子・藤野 進・西上みす江

・宮坂要治・二摩泰男・数原ユリ子・松本茂憲

【ホールインワン賞15打】

・藤波英子・西村宮子・西本 操・植田茂作
・二摩泰男・吉川岩夫2本・大月哲夫

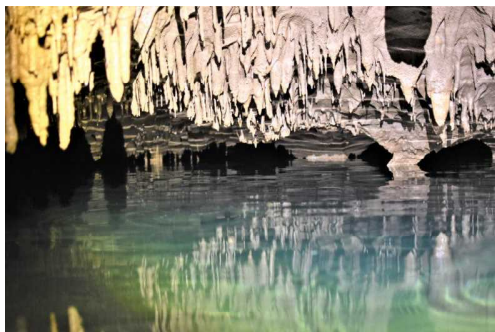
新シリーズ『草間台地の魅力』

（第6回）

大好きな草間台

大西稜也（東京スペレオクラブ）

草間の皆さん、初めまして。私は大阪市立大学1年生の時に洞窟探検と出会いました。はじめはつなぎを着て泥まみれになるのが楽しくて仕方ありませんでした。



しかし今の私は、洞窟の最大の魅力はその美しさにあると思います。ライトに照らされた岩の肌や生成物の数々はバリエーションに富み、色も形も訪れる洞窟毎に違います。耳を澄ますと風の音や虫の声の無い地上とは違う静けさのある空間、こだまする水流の音、たまにコウモリの鳴き声。鼻からはグアノ（コウモリの糞です）の匂いと水や土の香りの混じった独特の清浄なおい。どこまでも続く深い暗闇……。訪れたことのある人にしかわからない魅力を、自分が知っていることをとても嬉しく思ったものです。しかし活動し続けているうちに、昔は洞窟が子供の遊び場であったことや観光洞として広く楽しまれている洞窟があることを知りました。

どんな人にも体験と感動を与えてくれる洞窟は、草間台の魅力として日本中に知れわたってほしいと思いますし、これから草間と洞窟好きみんなのために大切にしていきたいと思っています。



小岩屋の穴にて（草間松二子）

短歌

ふと自転

留まるごとし 山寺の
夕べにほへり をがたまの花
滑 都

処暑の日々

ツクツクボウシは せわしげに
ミンミンゼミは 哀しげに鳴く
杉 秀樹

爺と孫

盆棚飾りつつ 語らひぬ 役割りのこと
キュウリと茄子の 西山富美子

歩行器で

毎朝歩く 八百歩 朝食の美味
帰りに食べし 長岡愛子

連日の

体温超える この猛暑 気候変動 先案じられ
中村すみえ

俳句

山住みの

取り込む朝刊 梅雨しめり 長田保子
梅雨明を 待つ遠近の 長電話 橋本八重子

川柳

題「調」「習」

老いの身を案じ調理も多種多様
習う事いらぬ草取りボツボツと

八十路調理はいつもワンパターン
親猿の仕草習いてぶどう取る

リズムミカルな音を楽しむ調理台
手習いは長寿時代のパスポート

「早く食べて」と猛暑日の命令調
八十の手習い辞書で文字探す

孫曾孫盆正月帰省順調に
草取りは老いの身にもまだ出来る

下調べだけに余念が無く疲れ
今は昔習い覚えた祭り笛

田井芳枝

高畑文子

笹田 彰

中村すみえ

才田茂美

小川久子

才田茂美

